

学校と地域をむすぶ

大津市立葛川小・中学校

地域コーディネーターだより

2015. 11. 30

NO. 5

かけはし

戦後70年 体験されたお話を聞いて



今年は、戦後70年。戦争を知らない世代が増えている中、5・6年生は戦争を体験された方々のお話を聞きました。社会科の歴史の学習で、戦争について学習をしましたが、日本と世界との戦いや日本全国の戦時中の様子など、一般的な内容にふれるものでした。もっと身近な所ではどうなんだろう。葛川や久多ではどんな

生活をしていたのだろう。学習していくうちに多くの疑問が出てきました。そこで、貫井の奥村千代さん、平の小西達雄さんにお越しいただき、当時の様子や思いなどを語っていただきました。「お金があっても物がなくて買うことができなかった」「カボチャや芋を少しの米にまぜてお粥にして食べた」「B29が上空を飛んでいた」「赤い紙一つで戦争に行かなあかん」「戦争が終わったのになぜ父親が帰ってこなかったのか」など、たくさんのお話を聞かせていただきました。子どもたちは、「今はとても楽な暮らしをしていて幸せだ」「戦争に行った人も大変だったけど、残っていた人も大変だったんだ」「食べ物がないのにみんな頑張っていたのがすごい」「もう戦争が起きないでほしい」と感想を述べました。

今は、当たり前のようにご飯を食べ、靴や服がある、学校に行って勉強し、お金で物を買う



ことができる。戦時中を生き抜いてこられた方々の苦労やつらさを知ることができ、それを乗り越えてこられた方々の強い力も感じました。5・6年生はこの学びをもとに、広島へ修学旅行に行きました。広島では原爆のもたらした悲惨な状況を学習し、世界中から戦争の火が消えることに思いを寄せて祈りを捧げました。戦争を体験してはいないけれど、語っていただいたこと、学んだことは次の世代に伝えていかなければならないと思いました。



秋の探検は貫井



1・2年生の町探検、秋の部は、「貫井」へ。ななちゃんの「おすすめスポット」。まずはお宮さんへ。くんくん。「これ何の匂い?」「ぎんなんやあ」。子どもたちはよく知っています。どこに銀杏の木があるのだろう。見上げてみると、ありました。大きな銀杏の木が。子どもたちは普段遊んでいる森の中の大きな岩などを案内し

てくれました。堰堤も間近に見ました。秋の花、ひつつき虫、ドングリ、柿の実、いろんな色の落ち葉。たくさん見つけました。最後は、河原においてみました。普段、道の上からはなかなか河原まで見ることができません。河原はすごく広く、大きな岩もたくさんありました。きっと台風による大雨の時に流されてきたのでしょう。いろいろな形や色の石を見つけて「〇〇みたい」と想像がふくらみます。大事に持って帰りました。耳をすませば川の向こうからは鳥の声。探検では、鼻も耳も大活躍。体全体で秋を感じてきました。



おばあちゃんたちに 楽しんでほしい



1～4年生は久多のいきいきセンターに行き、お年寄りの方々と交流会をしました。お昼が過ぎてから到着しましたが、おばあちゃんたちはお腹がすいているのに子どもたちといっしょにお弁当を食べるのを待っていてくださいました。お弁当を食べ終わり、なごやかな雰囲気になってきた頃、子どもたちは将棋やおはじき、百人一首を持っておばあちゃんたちを遊びに誘います。「将棋の駒をふって・・・」「このおはじきをはじいて」「坊主が出たら・・・」など遊び方を説明します。言っているよりやってみよう、ということで遊びが始まります。「やったあ」「ぬかれたあ」などあちこちの遊びの輪から歓声があがります。わきあいあいと遊びが盛り上がり、すっかりうちとけた頃、いよいよ出し物が始まりました。3・4年生がリーダーとなり、3つのグループを作って遊びやゲームの出し物を考えました。まずは、「ぴったりカード」。お題から思い浮かぶものをカードに書いて、リーダーの書いた答えとぴったりあえば得点がもらえるというゲーム。「わらで作

ったものは？」おばあちゃんたちの答えは「わらぞうり」が圧倒的に多い。さてリーダーの答えは？「(みの) かっぱ」。ありました。ぴったり答えの方が。次は色塗りゲーム。線で区切られた三角や四角を4色の色鉛筆で色を塗ります。ただし、隣り合っている所は同じ色を塗れないというルールです。頭を使いながら色を考えます。「あっ～この色も塗れへん」「あと、何色が使えるんやろう」



など頭をひねります。ゲーム担当の子どもたちはおばあちゃんたちの所に行って、「この色ぬったらええよ」「こっち先塗ってみて」など声をかけていきました。次は将棋やトランプを使ったゲームです。おばあちゃんたちと子どもたちが4人グループを作って遊びます。すごろくのように遊ぶ回し将棋。将棋の駒をふって駒を進めます。「ぬかされたあ」。

トランプを使ったゲーム。4枚のカードの数字がそろったら真ん中におかれたおじゃみをいち早くとります。「そろったあ」「おじゃみとらなあ！」目も手も口も使ってみんな必死です。もっと遊んでいたかったけれども、時間がきて最後の出し物、全員で「なめこ」のペーパーサートを披露しました。いろいろな「なめこ」(きのこ)が登場して、なめこのおうちを作るというお話です。それぞれが自分の「なめこ」を持ってせりふを言います。「んふんふ、んふんふ、・・・」となめこ全員がつぶやく場面の変わり目では、笑い声があちこちからおこり楽しんでもらえたようです。おばあちゃんたちに手作りプレゼントを渡しました。クリスマスツリーを貼り絵にした壁掛け、メッセージのペーパーフラワーです。いきいきセンターに飾っていただくことにしました。子どもたちは、おばあちゃんたちからおみやげに縄跳びと鉛筆を一人ずつ手渡していただきました。久多社会福祉協議会様よりいただきました。ありがとうございました。あっという間に時間は過ぎ、お別れの時がきました。



玄関先まで出てきてお見送りをしてくださいました。「楽しかったわあ～」「また来てやあ」と言ってくださいました。子どもたちは、この日に向けて、「楽しんでもらうには何をしたらいいだろう」「いっしょに遊びたいなあ」「座ってできることがいいかなあ」など、おばあちゃんたちを思い浮かべながら計画・準備を進めてきました。準備してきたゲームや出し物はもちろんのこと、お弁当を食べたあ

との遊びで親しくふれあい楽しむことができたのではないのでしょうか。おばあちゃんたちとたくさんお話できたこと、にこにこ笑ってくださったこと、用意したゲームや出し物を楽しんでくださったことで、いきいきセンターを後にする子どもたちはみんな満足いっぱいの笑顔でした。集まっていたおばあちゃんたち、そしてお世話いただいた久多社会福祉協議会の皆様方、ありがとうございました。

長年の技を学ぶ



3・4年生が寿会のおばあちゃんたちにわらざうり作りを教してもらいました。寿会の方々が、事前にわらうちをして下さったり、当日の朝早くから、わらをなつて準備をして下さいました。3年生ははじめての体験です。わらを目の前にして「どうやって作るのだろう？」とどきどきわくわくです。寿会の方々がマンツーマンで、

見本を見せたり、手をとって教えて下さいました。足の指にわらをかけてひっぱりながら編んでいきます。同じ姿勢でのまま力を入れているので、背中や腰が痛くなります。わらざうりを作るというのがこんなに大変だとは思いませんでした。「おじいちゃんたちもこんな作ってたん？」と昔の人々が大変な作業をしていたと感じました。4年生は、二度目の体験です。すぐに編み方を思い出し、どんどん編み進めていきます。「昔はみんなこうやって自分で作ったわらざうりはいて学校へ行ってたんやで」「どこに住ん



でる子や？ああ、あその向かいやなあ」など会話もはずみます。「どこまでやっ
たらいいの？」「わら、どうやってつなぐの？」と、子どもたちもいろいろ聞いて教えてもらいます。鼻緒を作るのがとても難しくて、手伝ってもらいながらも「ここ強く引っ張ってみい」「そうそう、ええ感じや」と鼻緒も完成。はさみでチョコチョコ出ているわらを散髪して、ようやく片足分が完成！もう片方はおばあちゃんたちがすごく手早い



技で編み上げて下さいました。慣れない作業でしたが、何とかわらざうりが完成し、履き心地をためす子どもたちでした。自分で作った喜びとともに、昔の人たちの知恵や技を学ばせていただきました。そして、手作りの良さの裏には、根気のいる大変な作業があることを感じる事ができました。

あまーい！ほくほく！ やきいもパーティー

1・2年生は、寿会の方々にお世話になりながら、125個ものさつまいもを収穫しました。そのさつまいもで、やきいもパーティーをすることになりました。朝早くから薪や落ち葉で火をおこして下さったり、アルミホイルやぬれ



新聞紙でさつまいもを包むのを手伝ってくださったりしました。アルミホイルの上から新聞紙を巻く、ぬれ新聞紙で巻いてからアルミホイルをかぶせるという違った焼き方も教えてもらいました。早くから火をおこしていただいたので、芋の準備ができた時には、よい火になっていて、その中に入れた芋は予想以上に早く焼けました。中を割ってみると、おいしそうな黄色。一口食べてみると、「あまい!」「ほくほく!」。とてもおいしい焼き芋でした。きっと収穫されたお芋がとてもよかった、たき火の火がとてもいい温度になっていたからなのでしょう。寿会の方々といっしょ



に食べました。たくさん焼けたお芋は、他の学年の人や中学生にも食べてもらいました。今年のさつまいも栽培に関わっては、春に頑丈な畑の柵を作っていたことに始まり、土づくりや苗植え、いも掘りなど寿会の皆様方大変お世話になりました。ありがとうございました。



雪に負けないで

秋に予定していた学校林活

動は雨で中止となりました。毎年、年に3回、小中学生全員でアシビ谷の学校林に行っていますが、今年は夏の活動も熊の出没により中止になりました。子どもたちは、春の作業以来山には行っていませんが、木がどれぐらい大きくなっているのかなあ、雪に負けないでがんばってほしいなどの思いを持っているようです。へキサチューブをかぶせたおかげで、鹿にも食べられず、温室効果ですくすくと生長しています。何もかぶせていない杉も5年目になり、幹も太くなってきて背丈をこえるぐらいになりました。森林組合の方々にはいつも様子を見に行っていたり、網を直したり草を刈っていただいたりするなどお世話になりありがとうございます。へキサチューブをかぶせて初めての冬越しです。

願いをかなえるために

3・4年生は社会科で「地域の発展につくした人々」という学習をしています。花折トンネルができる前はどのようにして町に行っていたのだろうか？花折トンネルをつくるためにどんなことをしたのだろうか？このトンネルができて何が変わったのだろうか？など、たくさんの疑問をもって、小西達雄さんのお話を聞きました。



実際に花折峠をこえる旧道を歩きながら、昔の道の話をお聞きました。平側から峠を越えて途中側に下りるには1時間45分かかりましたが、スクールバスで花折トンネルを走ってもらうとわずか2分でした。このトンネルができたことにより、とても便利になったのだと感じました。しかし、この

トンネルはそう簡単にできたのではなかったようで、大正時代からたくさんの方々をお願いにいくつくださり、やっと工事がはじまり昭和50年に完成。かれこれ50年ほどの月日を経てトンネルができ上がったというお話にびっくりしました。そして、トンネルの出口にある顕彰碑の裏に書かれた文字からも、人々の願いや努力が感じられました。今、当たり前のように車で走り抜けている「花折トンネル」。このトンネルができていなかったら、今葛川はどんなふうになっているのでしょうか？トンネルをつくってほしいという願いを伝えるために、努力をしていただいた方の中には、トンネルが完成するのを見ずして亡くなられた方もあったようです。たくさんの方々の努力と長い月日を費やしてできたトンネル。あらためてこのトンネルのありがたさを感じるようになりました。

